技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 ☒ 維持管理 ☒ 環境 ☐ コスト ☐ ICT ☐ 品質 ☐ <small>（該当する分類に○を付けてください）</small>		
技術名称	底泥分級浄化工法	担当部署	土木本部技術開発部
NETIS登録番号	KTK-110004-A	担当者	榊原雅人
社名等	あおみ建設株式会社	電話番号	03-5439-1014
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>現在、国交省や環境省などの関係諸官庁と地方自治体等とが連携して、「全国海の再生プロジェクト」が推進されています。</p> <p>海域における環境改善は、汚泥の堆積が著しい運河等では、堆積有機物をはじめとする底泥の除去（汚泥浚渫）や、良質な土砂を用いた浅場の造成による底質改善（覆砂）等、汚濁負荷の削減対策が実施されています。</p> <p>汚泥浚渫では、処分場の容量不足の問題も有り、近年では密閉グラブによる高濃度薄層浚渫工法が開発され、一般的な浚渫方法に比べて浚渫土処分量が低減できる様になってきていますが、更なる処分量の削減が求められています。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>閉鎖性水域の水質改善のため、汚染された底質を水-空気により懸濁化させ、表層に浮遊した有機物質や硫化物が付着した細粒分を除去することで、底質が好気状態となり硫化水素の発生が抑制され悪臭の発生を防止します。汚染の少ない粗粒分は現水底に存置したまま細粒分のみを分級除去することで底泥処分量の低減を図る工法です。</p> <p>汚染物質の吸着しやすい細粒分のみを分級除去することができるため、放射性物質に汚染された土壌も効率よく除染することができます。除去する底泥量を減容化できるため、処分にかかる経済的・環境的負荷が少ない工法です。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>従来技術の4つの利点を複合的に組合せ、新しい理論に基づき開発された底質改善工法です。 (1) 浚渫土量の削減 (2) エアレーションの効果 (3) 海底耕耘 (4) 覆砂効果</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>以下のような用途、場所において高い効果が期待できます。 ①栄養塩や有害物質に汚染された底質、水質の改善 ②有害物質の除去 ③底泥により効果が薄れた覆砂機能の回復 ④閉鎖性水域 ⑤供用中の荷役岸壁前面 ⑥養殖イセス ⑦河口付近、湖沼・ダム</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 0 件（九州 0件、九州以外 0件） 自治体 1 件（九州 0件、九州以外 1件） 民間 0 件（九州 0件、九州以外 0件）</p>		